



国際ロータリー第 2530 地区 郡山アーバンロータリークラブ

国際ロータリー第2530地区ガバナー 平井 義郎
郡山アーバンロータリークラブ 会長 白岩 邦俊
幹事 松川 義行



インスピレーションに
なろう

第 30 回 例会 H.31.3.20 水

▶ ロータリー歌斉唱「それでこそロータリー」 四つのテスト唱和 土田 博さん

▶ ゲスト 白石昇央様 佐藤 篤様

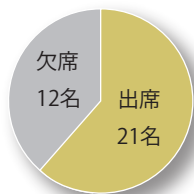
会長挨拶

白岩 邦俊 会長

3 月は水と衛生月間です。「ロータリーの友」に特集記事が書かれています。毎年 3 月 22 日を世界水の日と国連が定めています。郡山アーバン RC でも水と衛生に関して、グローバル補助金を利用した事業を行っております。アジア、アフリカにはまだまだきれいな水を必要とする地域がたくさんあります。ロータリーではそのような場所の環境改善のためにいろいろなことを行っており、国内でも水害被害時などの水の供給などの支援にも努力しております。毎月定められている月間をヒントとしながら活動していきたいと思います。

出席報告

増子ふみえ 委員長



総 員 33名
出 席 率 63.64%
前回修正率 57.58%

スマイルBOX 報告

渡邊 孝子 委員長

- 😊 小口憲太郎 ▶ 白石さんありがとうございます。
- 😊 渡邊万里子 ▶ 卓話楽しみにしています。
- 😊 岩山慎一 ▶ 白石氏のパワフルなスピーチを期待して。
- 😊 大山三起雄 😊 橋本弘幸 😊 松川義行 😊 味戸誠一郎
- 😊 宗形千鶴 😊 佐藤功一 😊 井上 厚 😊 渡邊孝子

幹事報告

松川義行 幹事

- ① ガバナー月信に、先日行われたロジャーペンの贈呈式が掲載されておりますのでご一読ください。
- ② 地区職業奉仕委員会セミナーが 4 月 20 日に開催されます。

プログラム／ゲスト卓話

ゲスト紹介

小口憲太郎 戦略計画委員長

旅館業でも環境の問題として、食べ物が残ってしまうことやエネルギーなど、悩むところがたくさんあります。宴会では乾杯してから 15 分間は席を立たずに食事をしてもらうなどの運動をしている旅館もありますが、基本的にはおいしいものを提供して、みんな食べてもらうことが一番だと思います。エネルギーに関しては、安積高校の同級生の白石さんからご提案をいただいて実施したいと思っております。白石さんは応援団で、学園祭で空手の演武をされました。私は物理部でしたので全く接点はありませんでしたが、ある会でお会いして以来、親しくさせていただいております。今日も二つ返事で卓話をお受けいただきました。よろしくお願いいたします。

福島ミドリ安全(株) 代表取締役社長
(株)エナジア 代表取締役

白石昇央 様

「フクシマの復興に向けた『グリーンイノベーション戦略』
～気候変動リスクは、
最大のビジネス(産業創出)チャンス!!～」



ロータリーの例会には初めて来ましたが、3 分の 1 ほどの方々が公私ともにお知り合いなので、少し安心しております。3.11 以後もいろいろな自然災害が続いておりますが、これを新しい産業モデルに変えることがひとつのビジネスになるのではないかと考えております。

ミドリ安全(株)は全国に 211 拠点あり、世界 19 か国にサプライチェーンを組んでおります。約 2 千億円のグループ会社で、私は福島で社長をしております。安全衛生用品やユニホームのほか、最近は原発の作業員の放射線レベルをセンシングするウエ



アラブルシステムの開発もしております。(株)エナジアは東邦銀行からのファンド出資を受けて始めました。3.11では環境と安全の神話が崩れたと思いました。復興は福島を主体にして行すべきだと考えて、安全を生業としているミドリ安全(株)に相談しましたが、範疇が違うと言われました。安全とエネルギーの部分をやらなければ復興ではないと思い、貯金をおろして会社を作り、東邦銀行の支援を受けながら、再生可能エネルギーで産業創生をしようと考えております。高知県の観光特使もしております。高知県は環境先進県です。千本の木があるとすると、半分の500本を切ることでCO2の吸収率が上がり、日本のCO2削減に還元するという尾崎高知県知事の活動に感銘し、震災前から協賛しております。

(株)エナジアが最初に行ったのは川内村の太陽光発電事業でした。復興は地域の皆様がエネルギーやリスクなども含めて、地元の企業が開発して利益も地元に残すことが良いと考えて、7億6千万円の借金をして事業を始めました。ドイツは脱原発を唱えていましたので、震災の年に行ってみました。9つの村を再生可能エネルギー100%にしたことで有名なベン・ミュラーさんと会いました。スイスとオーストリアでは、70年前から木質バイオマスにより、地域の1500カ所に暖房を供給する施設を見ました。フィンランドの電力会社は下水の熱からヒートポンプにより冷暖房をしており、フランスではセーヌ川の水による冷暖房をしていました。世界は15年ほど前から小規模発電を向いています。ヨーロッパはエネルギーに関しては自立しています。緊急災害時にも動き、自立できる再生可能エネルギーを知りました。

国連は持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されるSDGs(Sustainable Development Goalsの略)を2015年に発表しました。ほとんどがエネルギーと環境問題です。それを都市のインフラにすれば生活も豊かになるし、エネルギーの無駄なコストも下がるということで、市場規模は12兆ドル、雇用人口は約3億8千万人とされています。福島では復興のほとんどは東京の会社・人が行っています。復興は福島の企業が主体で行うほうが良いと感じています。少子高齢化、産業の空洞化などの解決課題に対しても、ビジネスチャンスが生まれることと思います。

産業革命以前と比べて2度以上の温暖化が進んでおり、人類最大の課題と言われます。ヨーロッパに行くと、地域の熱供給から始めていることが分かりました。再生可能エネルギーを熱に特化すれば、福島でも産業創出できると思いました。小水力、木質バイオマス、太陽熱、太陽光、地中熱などの再生可能エネルギーは身の回りにあるものであり、AIやICTやIOTの技術により、いつでもどこでもだれでも電力会社になることができます。国も電気事業法を変え、来年には完全分離されます。

南会津町で国内初の事業を始めました。木質チップを燃やして温水を作り、ホテルや温泉施設に利用します。地元の資源を使って熱と電気が担保でき、同時にCO2が削減できます。川内村には現在は年配の方々しか戻っておりませんので、買い物と病院と役場に行くためのバス会社を作り、70カ所の地域を循環しています。須賀川のおとぎの宿米屋では、余ったお湯を利

用して年間約56%のエネルギーを削減しました。郡山しんきんプールでは地中熱を使うヒートポンプでお湯を作っています。緊急災害時には熱と電気が自立でき、平常時はコスト削減でき、誰もがエネルギーの生産者になれるような仕組みを作りたいと思っています。

国は国際条約会議で約束したCO2削減のために、ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)に今年度だけでも210億円の補助金を出して省エネ化を進めています。環境庁は3年間で600億円ほどの補助金を出しています。今日、東北大学のZEB化を宮城県・福島県でプレス発表しました。ZEB化によるエネルギー削減率104%は日本初です。これまでの化石燃料を大幅に削減し、緊急災害時にも強く、省エネによってコストを削減でき、創エネによって電気を創ります。再生可能エネルギーの導入には補助金が出ます。給湯・空調・照明・昇降機・換気などを入れ替えれば、通常は民間は3分の1ですが、ZEBには3分の2が出ます。エネルギーにこだわれれば、持ち出しコストも下がることと思います。緊急災害時に問題となる透析に関しても、32度ある透析の廃液を再生可能エネルギーとして使うことが、昨日決定しました。復興のために何か新しい産業や地域に貢献できることがないかと考えて仕事をしております。



ロータリー財団寄付者

■鈴木かおる ■小口憲太郎 ■土田 博 ■橋本弘幸

米山記念奨学会寄付者

■津野順子 ■味戸誠一郎 ■小口憲太郎 ■橋本弘幸
■大山三起雄 ■白岩邦俊 ■宗形千鶴

ポリオ寄付者

■橋本弘幸 ■土田 博 ■小口憲太郎

閉会点鐘